

Sata Fellowship King's College Program 研修

平井 智恵

平井 智恵 / ひらいち恵
現在、大阪府立母子保健総合
医療センター勤務



わが国の新生児呼吸器学分野における研究が、英国の研究者と交流を深めつつ、特に若い研究者によってさらに推進されることを期待し、1998年にSata Fellowship King's College Program が制定された。

これは、日本未熟児新生児学会会員を対象として、学会前理事長の故小川雄之亮先生のご支援のもと、英国King's College Hospital のAnne Greenough教授のご厚意により、King's College Hospitalにおいて教授の指導のもとで3カ月間の新生児呼吸器学研究研修を行うための留学を助成するというものである。以後、毎年選考会が開かれ、多くの応募者の中から選ばれた1名の若き研究者を英国に送り出してきた。

今回、昨年選考会を通過され、英国で3カ月間を過ごした平井智恵氏から研修報告書をいただいたので、誌面に紹介させていただきます。

*

2002年の10月1日から12月23日までの約3カ月間、ロンドンのKing's College Hospital のNationwide Regional Neonatal Intensive Care Center (NICU)に留学させていただきました。出発直前まで日常業務でバタバタしており、十分な準備、下調べもできぬまま出発当日を迎えてしまうことになりましたが、持ち前の大胆さと強い精神力でなんとか乗り切れるだろうと、そのままロンドンに乗り込んでいきました。King's College HospitalのNICUはNICU12床、GCU6床、リカバリールームからなっており、ロンドンの中では規模の大きなNICUでした。私が研修を開始して1週間後には新病棟へ引っ越しをしたこともあり、新しい機械に囲まれたきれいなNICUで、窓から美しい景色を眺めながらの研修生活を送ることができました(晴れた日にはテムズの南岸まで見渡せました。ただ残念なことに、天気の良い日はそれほど多

くはありませんでしたが)。スタッフはAnne Greenough教授を筆頭にたくさんおり、役割も細かく分かれているため、結局最後まで全員を把握することはできませんでした。私はclinical research fellow という肩書きだったので、私以外にも5人おり、面白いことに彼らはギリシア人、フィンランド人、フランス人、インド人、オーストラリア人で、イギリス人は一人もいませんでした。彼らは早産児の呼吸機能の研究を行っており、私は3カ月という短期間では系統だった研究はできないということで、主に彼らの助手として働いていました(当初は「専門はなにか?」と聞かれてうっかり「栄養」と答えてしまったため、「呼吸」には興味がないと思われるので2週間ほどぼつたらかにさせてしまったのですが...)。彼らは私に自分たちの研究について親切に教えてくれました。Lung modelを用いてSLE、Stephanie、Babylogの3種類の呼吸器を比較し、肺の圧や容量のデータをとったり、dead spaceを大きくした場合の肺の容量や圧の影響を早産児と満期産児で比較するための基礎データを収集したり、慢性肺疾患の新生児の機能的残気量を測定してデータをとったりと、短期間であったため深く追求することはできませんでしたが、色々な研究に少しずつですが携わることができました。また、Greenough教授は私が日本でやっている研究についても興味を持ってくださり、カンファレンスで発表する機会を与えてくださいました。教授を始め他のスタッフも私の研究に対して色々意見を述べてくれ、日本で行っていた私の研究にも大いに役立つものとなりました。初めのうちは英語もたどたどしく、なかなかス

タッフとうち解けることができずでしたが、大学のNICUの写真を見せながら日本の新生児医療のことを話してみたり、日本食を作ってスタッフにふるまったり、クリスマスに千代紙で置物を作ってプレゼントしたりと、手を変え品を変え、色々な方法でコミュニケーションをとり親しくなるように努力しました。彼らの方も、日本の新生児医療および日本そのものに強い関心があったのと、こちらの一生懸命さも伝わったようで、次第に仲良くなっていくことができました。クリスマスシーズンでもあったことから教授の家のクリスマスパーティーにも招待されたり、スタッフと食事に出かけたりと、病院での研修以外にも楽しい経験がたくさんできました。研修の終わりごろには、「まだ日本に帰りたいくない...」と思うまでになっていましたから。短期間ではありましたが、本当に貴重な経験をすることができました。視野が広がったこと、多くの知人・友人ができたということが大きな収穫であったと思います。King's College Hospitalはテムズ川の南岸、ロンドンの南東部にあり、ここはロンドン随一治安の悪いところとして有名なのだそうで、少しばかり怖い思いもしましたが、今となればいずれもよい経験だと思えます。今回の経験で得たものを無駄にしないようにさらなる努力精進を続けていくつもりですので、今後ともご指導の程よろしくお願いたします。最後になりましたが、今回のような機会を与えてくださいました日本未熟児新生児学会、佐多フェローシップに関わる全ての皆様に感謝いたします。

* 日本未熟児新生児学会ホームページに募集要項が掲載されています。
<http://plaza.umin.ac.jp/~jspn/>